

トップページ：<http://mylibrary.maedal.jp/>

ブログ「石油と中東」（日本語）：[https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki\\_1943](https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリーNo.：0579

(注)本稿は2023年6月19日から23日まで3回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2023.6.25

## 最近の OPEC+(プラス)生産目標量と実生産量の推移

サウジアラビアを中心とする OPEC 加盟 10 カ国とロシアを中心とする非 OPEC 産油 10 カ国、いわゆる OPEC+(プラス)の 20 カ国は最近、頻繁に生産目標量を引き下げている。それは OPEC プラス閣僚会合による一斉減産あるいは複数の国による自発的な減産であったり、時にはロシアまたはサウジアラビアによる単独自主減産など種々の形態をとっている。

ここでは昨年9月以降、最近の6月までの公表数値に基づき来年12月末までの OPEC+全体及び主要国の生産目標量の推移を確認する。またサウジアラビア、ロシア等の主要産油国については昨年10月から今年5月(または4月)までの実生産量と生産目標量との乖離を比較する。

生産目標については OPEC 資料では Required Production あるいは Voluntary Production と表記されているが、本稿では生産目標量とした。実生産量は OPEC 月報 (Monthly Report) のデータを引用している。ロシアは 2022 年 1 月以降、同国エネルギー省による公式発表がないため、OPEC 月報の数値を引用した。

なお OPEC 加盟国 13 カ国のうちイラン、リビア及びベネズエラ 3 カ国は協調減産に参加していない。いずれも米国(及び一部先進国)による経済制裁措置を受けているためである。これらの国々の生産量 100 万 B/D を超えているが、参考までにこれら各国の実生産量の推移も合わせて提示する。

### 1. 昨年 10 月以降の生産目標の推移(末尾表 1-D-2-36 参照)

昨年 10 月の閣僚会合で OPEC プラスは▲200 万 B/D の協調減産を決定した。この結果 11 月以降の目標生産量は 41,856 千 B/D(OPEC10 カ国 25,416 千 B/D、非 OPEC10 カ国 16,440 千 B/D)となった。サウジアラビア及びロシアは共に 10,478 千 B/D で全体の丁度半分を占めている。

その後今年 2 月にロシアは自主的に▲500 千 B/D の減産を表明した。ウクライナ紛争で欧米各国の輸入制限を受けたこともあり原油価格の上昇を狙ったものと見られる。4 月 2 日には OPEC6 カ国と非 OPEC2 カ国がロシアに追随する形で▲1,157 千 B/D(内、サウジアラビア▲500 千 B/D)の自主減産を公表、5 月以降の OPEC プラス 20 カ国の生産量は 40,199 千 B/D(OPEC10 カ国 24,377 千 B/D、非 OPEC10 カ国 15,822 千 B/D)になった。

6 月 14 日の OPEC プラス閣僚会合ではこの協調減産体制を来年末まで継続することが確認されたが、そ

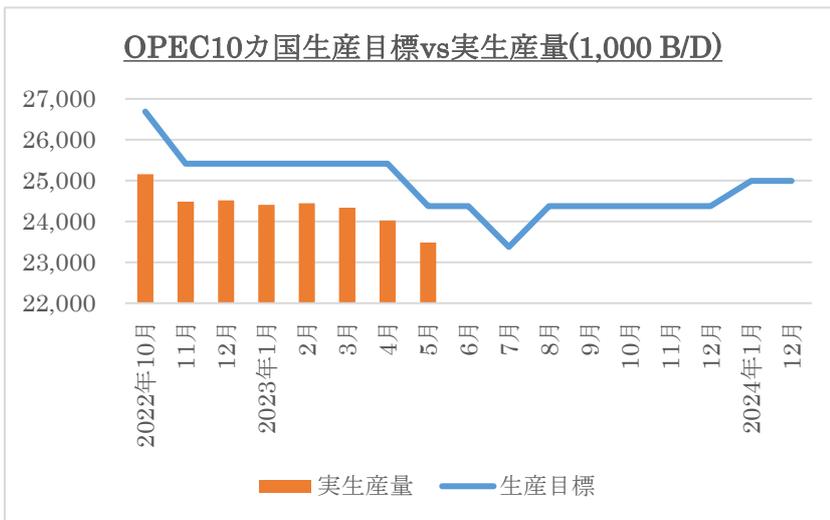
の際、来年1月以降については現在の実生産量を考慮して各国の生産目標を微調整し、OPEC+全体としては現在よりも385千B/D多い40,584千B/D(OPEC10カ国24,994千B/D、非OPEC10カ国15,590千B/D)とされた。なおサウジアラビアは今年7月のみ▲1,000千B/Dの追加減産を表明している。

これらの結果を総合すると、OPEC10カ国の目標生産量は昨年10月以前の26,689千B/Dから今年5月以降は24,377千B/Dに▲9%弱減少していることになる(7月のみはサウジアラビアの1,000千B/D自主減産により▲12%減)。また非OPEC10カ国の減産率は▲8%弱となる。因みにサウジアラビアとロシアの今年8月以降12月までの目標生産量は共に9,978千B/Dであるが、来年1月以降はサウジアラビアは昨年11月～今年4月までの水準(10,478千B/D)に復帰する一方、ロシアは9,949千B/Dとこれまででもっとも低い水準に落ち込み、サウジの目標生産量と500千B/D近い差が生じることとなった。

## 2. 目標生産量と実生産量の乖離

目標生産量に対し実際の生産量がどうなっているか、ここではサウジアラビア、ロシア等主要な産油国についてOPEC月次レポートにより検証してみる。なおロシアは2021年末まで同国エネルギー省が公式統計を発表していたが昨年1月以降ストップしているため、ここではOPECレポート月報に明記された今年4月までの生産量を取り上げた。

### (1) OPEC10カ国の合計生産量(図 2-D-2-50 参照)



OPEC プラスの協調減産体制に組み込まれている OPEC10 カ国の昨年10月以降の生産目標と実生産量を比較すると、まず昨年10月は生産目標26,689千B/Dに対し実生産量は25,154千B/Dであり、差引▲1,535千B/Dの目標未達であった。

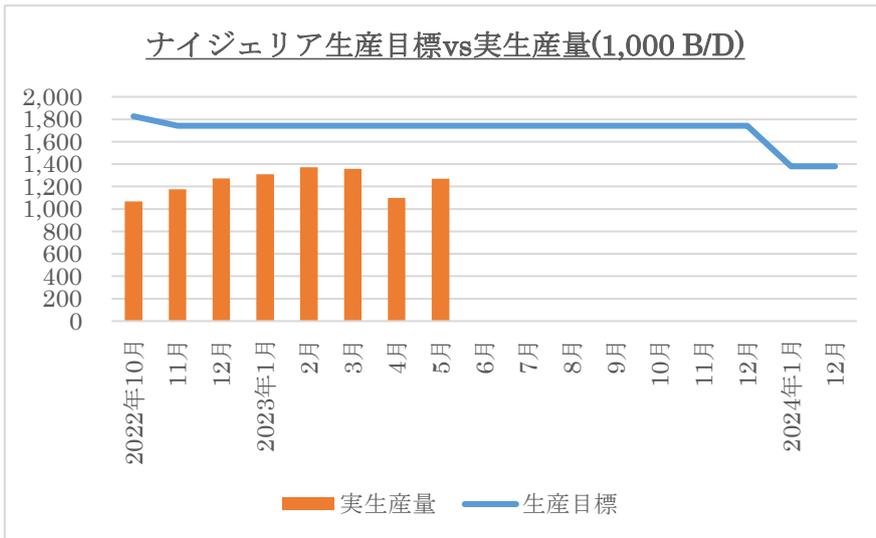
翌11月からOPECプラスは▲2,000千B/Dの協調減産を実施、OPEC10カ国の生産目標量も25,416千B/Dに引き下げられたが、同月の

実生産量は24,487千B/Dであり▲929千B/Dの乖離が生じている。

4月にサウジアラビアなどOPEC6カ国は非OPEC2カ国とともに合計▲1,157千B/Dの自主減産を公表している。しかしOPEC10カ国の5月の生産量は目標24,377千B/Dに対し実際には23,482千B/Dにとどまっており、なお▲900B/D近く目標未達である。

このようにOPEC10カ国で目標未達が常態化しているのは次に述べるようにアンゴラ及びナイジェリアの生産量が目標を大きく下回るレベルにとどまっているためである。

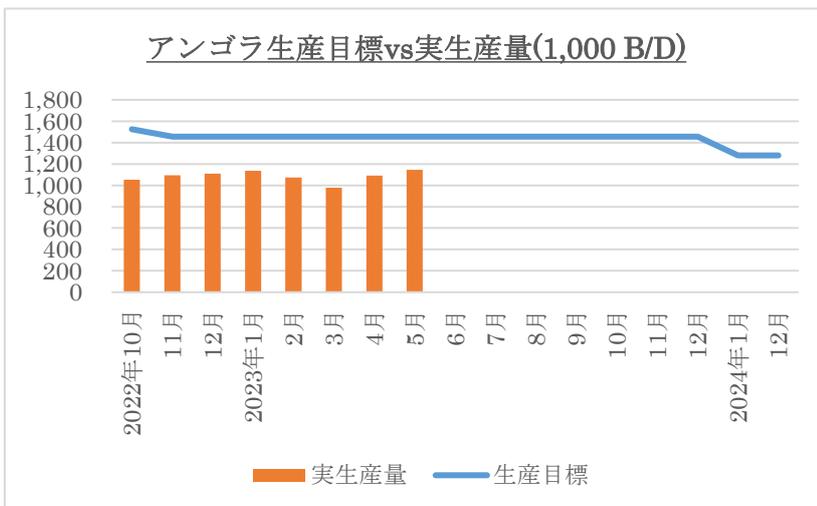
### (2) 目標を大きく下回るナイジェリア及びアンゴラの生産量



昨年10月のナイジェリア及びアンゴラの生産量は1,066千B/D及び1,054千B/Dであった。同月の生産目標はそれぞれ1,826千B/D及び1,525千B/Dであり、目標未達量はナイジェリア▲760千B/D、アンゴラ▲471千B/Dに達していた。ナイジェリアの生産量は目標の6割、アンゴラは7割にとどまっていたのであり、この2か国がOPEC全体の足を引っ張っていた

ことになる。

ナイジェリアの生産量は今年に入り2月、3月には130万B/D台後半まで回復したが、その後再び低迷、5月は1,269千B/Dに落ち込んでいる。またアンゴラの実生産量は100万B/D前後に停滞したままであり、これら2か国が目標未達の主因である。



両国の生産低迷はロシアやイランのような欧米の経済制裁が原因ではなく、国内の部族対立またはイスラム過激派による石油施設の破壊、或いは石油パイプラインからの原油窃盗密売などにより原油の正常な生産輸出が妨げられるという国内事情が原因である。事態が鎮静化しないため今後とも安定的な石油操業は期待できそうにない。

このため、6月のOPECプラス会合では来年1月以降の目標生産量をナイジェリアは1,742千B/Dから1,380千B/Dに、アンゴラは1,455千B/Dから1,280千B/Dに引き下げられている。伝えられるところでは会合で両国は目標の下方修正に強く抵抗したと言われるが、現状を見る限り引き下げはやむを得ないところであろう。

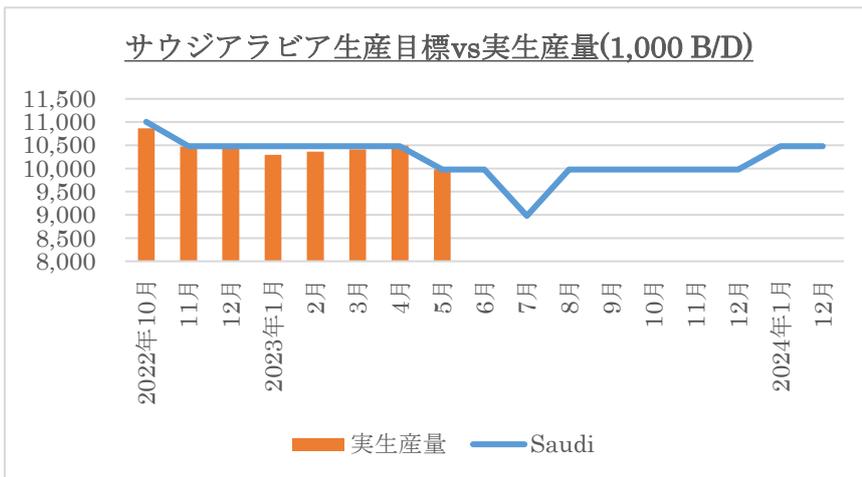
### (3) 目標を無視する(?) ロシアの生産量 (図 2-D-55 参照)

昨年10月のロシアの生産量は11,050千B/Dであり目標値11,004千B/Dとほとんど差が無い。つまりロシアはOPECプラスの決定に忠実であったことがわかる。しかし、OPECプラスが11月に▲2,000千B/D減産を決定して以降、同国の石油生産量は真逆の動きを示している。即ち、11月の実生産量は目標を742千B/D上回り11,220千B/Dを記録している。その後同国は2月に▲500千B/Dの単独自主減産を打ち出したにもかかわらず11,000千B/Dを上回る生産を続けており、3月にはついに目標値を1,122千B/Dも

上回る始末である。

ウクライナ紛争に伴う経済制裁により同国の欧米先進国向け輸出はほぼストップしているが、世界の大半の国はロシア原油の輸入を継続しており、中国、インドなどはむしろロシア原油を買い叩き輸入量を増やしている有様である。ロシアは戦費調達のためダンピング輸出を余儀なくされているが、現在のところ輸出先に困っているようには見えない。困惑しているのはむしろ経済制裁の効果があらわれず焦っている欧米先進国の方なのかもしれない。

#### (4) スウィングプロデューサーの役割を押し付けられたサウジアラビア



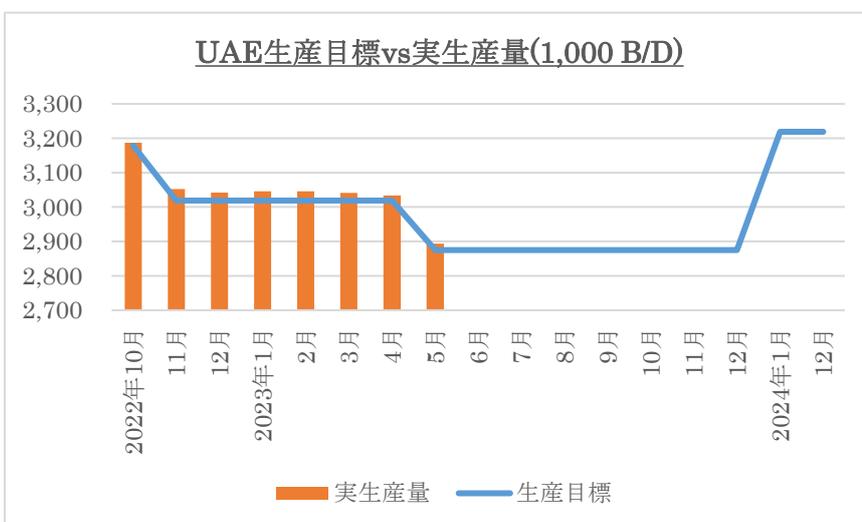
目標生産量を達成できないアフリカ産油国と目標を無視して高レベルの生産を維持するロシアに挟まれ、結局 OPEC プラス 20 カ国の中でスウィングプロデューサーの役割を押し付けられているのがサウジアラビアである。

昨年 10 月の同国の生産量は 10,861 千 B/D であり、ほぼ目標

生産量 11,004 千 B/D 通りである。▲2,000 千 B/D の協調減産後も目標達成率は 99%程度で推移しており、▲500 千 B/D の自主減産を公表した 5 月も実生産量は目標値と全く同じ水準に抑えている。

財政に余裕があり生産量の調整が容易だからこそ心ならずもスウィングプロデューサーの役割を引き受けているのが現在のサウジアラビアの姿と言えるであろう。

#### (5) 将来の増産計画を認めさせた UAE



UAE の実生産量は目標生産量のほぼ 100%である。つまり UAE は OPEC の盟主サウジアラビアの方針に忠実であるように見受けられる。しかし詳細に見ると毎月の生産量が当該月の目標生産量をごくわずかながら上回っていることがわかる。

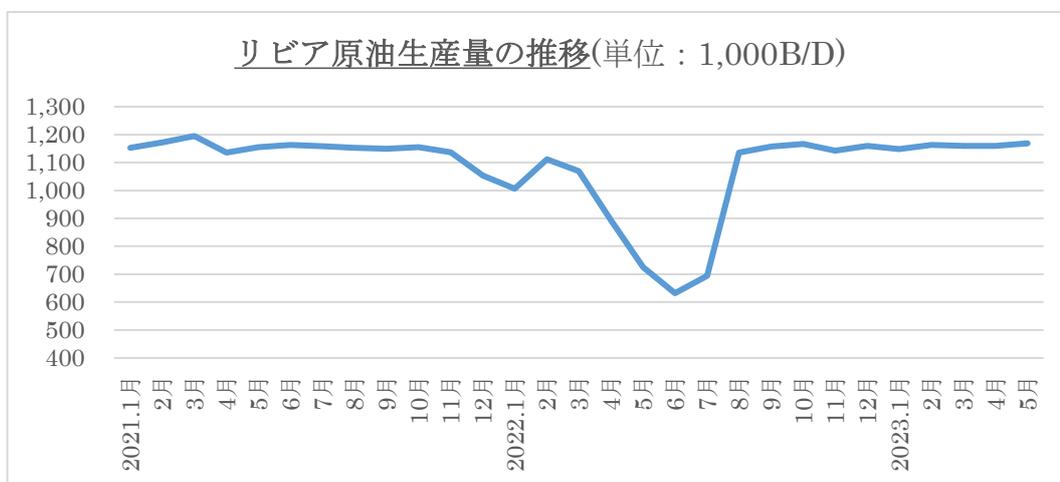
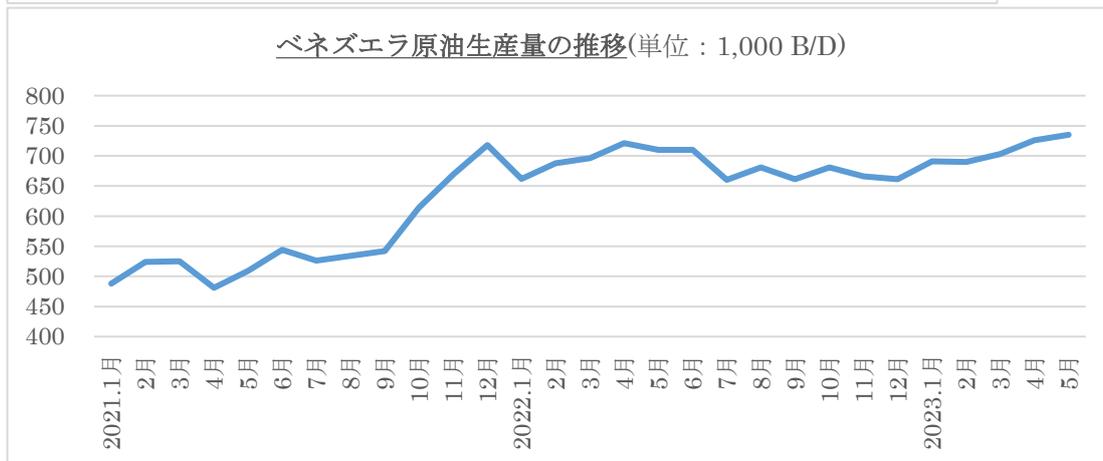
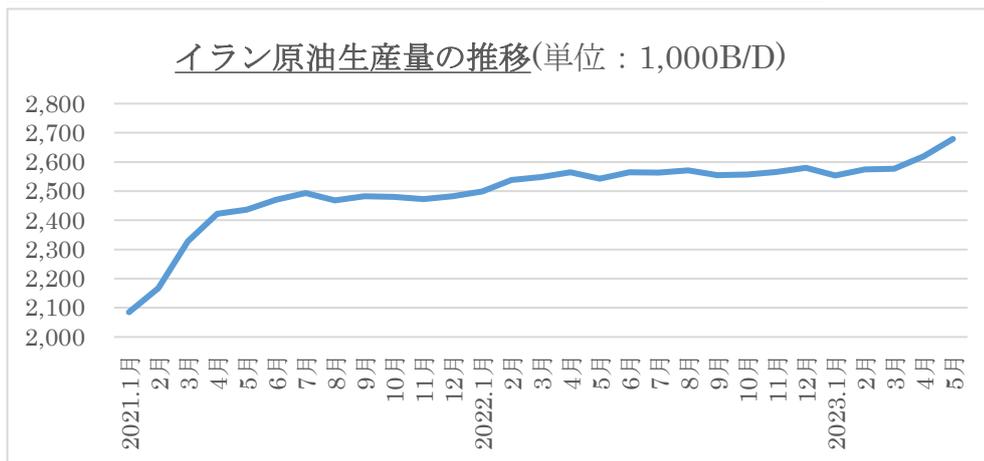
即ち昨年 10 月は目標 3,179 千 B/D に対し実際の生産量は 3,187 千 B/D であり、わずかではある

が実生産量が 8 千 B/D 上回っている。しかし 11 月以降目標量が 3,019 千 B/D に下方修正されると、実生

産量も下がったものの、目標に対する超過量は2万乃至3万B/Dに拡大している。

これは何を意味するのであろうか。現在のUAEは増産計画に熱心であり、将来の生産能力アップをアピールしている。そのために現在の目標量を上方修正したいのである。この作戦は成功したようであり、6月のOPECプラス会合でUAEの現在の生産目標量2,875千B/Dは来年1月以降344千B/D上積みされて3,219千B/Dに見直されている。

(6) 協調減産を免れ増産に余念がないイラン、ベネズエラ、リビア



冒頭で触れたように OPEC 加盟国 13 カ国のうちイラン、リビア及びベネズエラの 3 カ国は協調減産に参

加していない。米国および一部先進国による経済制裁を受けているためである。ところがイラン及びベネズエラは OPEC プラス 20 カ国が協調減産体制に入った昨年 10 月以降、逆に増産を続けており、リビアも減産傾向が見られない。

イランの場合、昨年 10 月の生産量は 2,557 千 B/D であり、今年 1 月は 2,554 千 B/D であったが、4 月には 2,619 千 B/D、さらに 5 月には 2,679 千 B/D に上昇している。昨年 10 月に比べ生産水準は 10 万 B/D 以上アップしているのである。

ベネズエラもほぼ同様の傾向を示しており、681 千 B/D(10 月)→691 千 B/D(1 月)→726 千 B/D(4 月)→735 千 B/D(5 月)であり、今年 5 月は昨年 10 月に比べ 5 万 B/D の増産である。リビアは政府系と反政府系軍事勢力の対立で国内情勢が不安定であるが、石油生産は昨年 8 月以降 110 万 B/D を超えて安定している。

3 か国はいずれも欧米先進国の輸入禁止の網の目をくぐり、中国、インドなどにダンピング輸出を行っている。OPEC プラス 20 カ国が現在野放しの 3 カ国を今後どのように扱うか。深刻な問題を提起していると言えよう。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; [maedal@jcom.home.ne.jp](mailto:maedal@jcom.home.ne.jp)

(表 1-D-2-36a)

**OPEC 10 及び Non OPEC 10(OPEC+) の国別生産枠(Required Production Level)(2022 年 10 月～)**

(1,000 B/D)

国名	2022 年 10 月	11 月	12 月	2023 年 1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
アルジェリア	1,055	1,007	1,007	1,007	1,007	1,007	1,007	959	959
アンゴラ	1,525	1,455	1,455	1,455	1,455	1,455	1,455	1,455	1,455
コンゴ	325	310	310	310	310	310	310	310	310
エクアトール・ギニア	127	121	121	121	121	121	121	121	121
ガボン	186	177	177	177	177	177	177	169	169
イラク	4,651	4,431	4,431	4,431	4,431	4,431	4,431	4,220	4,220
クウェイト	2,811	2,676	2,676	2,676	2,676	2,676	2,676	2,548	2,548
ナイジェリア	1,826	1,742	1,742	1,742	1,742	1,742	1,742	1,742	1,742
サウジアラビア	11,004	10,478	10,478	10,478	10,478	10,478	10,478	9,978	9,978
UAE	3,179	3,019	3,019	3,019	3,019	3,019	3,019	2,875	2,875
<b>OPEC 10 小計</b>	<b>26,689</b>	<b>25,416</b>	<b>25,416</b>	<b>25,416</b>	<b>25,416</b>	<b>25,416</b>	<b>25,416</b>	<b>24,377</b>	<b>24,377</b>
アゼルバイジャン	717	684	684	684	684	684	684	684	684
バハレーン	205	196	196	196	196	196	196	196	196
ブルネイ	102	97	97	97	97	97	97	97	97
カザフスタン	1,706	1,628	1,628	1,628	1,628	1,628	1,628	1,550	1,550
マレーシア	594	567	567	567	567	567	567	567	567
メキシコ	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753
オマーン	881	841	841	841	841	841	841	801	801
ロシア	11,004	10,478	10,478	10,478	10,478	9,978	9,978	9,978	9,978
スーダン	75	72	72	72	72	72	72	72	72
南スーダン	130	124	124	124	124	124	124	124	124
<b>非 OPEC 10 小計</b>	<b>17,167</b>	<b>16,440</b>	<b>16,440</b>	<b>16,440</b>	<b>16,440</b>	<b>15,940</b>	<b>15,940</b>	<b>15,822</b>	<b>15,822</b>
<b>OPEC+(プラス)合計</b>	<b>43,856</b>	<b>41,856</b>	<b>41,856</b>	<b>41,856</b>	<b>41,856</b>	<b>41,356</b>	<b>41,356</b>	<b>40,199</b>	<b>40,199</b>

(表 1-D-2-36b)

国名	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	12月
アルジェリア	959	959	959	959	959	959	1,007	1,007
アンゴラ	1,455	1,455	1,455	1,455	1,455	1,455	1,280	1,280
コンゴ	310	310	310	310	310	310	276	276
エクアトール・ギニア	121	121	121	121	121	121	70	70
ガボン	169	169	169	169	169	169	177	177
イラク	4,220	4,220	4,220	4,220	4,220	4,220	4,431	4,431
クウェイト	2,548	2,548	2,548	2,548	2,548	2,548	2,676	2,676
ナイジェリア	1,742	1,742	1,742	1,742	1,742	1,742	1,380	1,380
サウジアラビア	8,978	9,978	9,978	9,978	9,978	9,978	10,478	10,478
UAE	2,875	2,875	2,875	2,875	2,875	2,875	3,219	3,219
<b>OPEC 10 小計</b>	<b>23,377</b>	<b>24,377</b>	<b>24,377</b>	<b>24,377</b>	<b>24,377</b>	<b>24,377</b>	<b>24,994</b>	<b>24,994</b>
アゼルバイジャン	684	684	684	684	684	684	551	551
バハレーン	196	196	196	196	196	196	196	196
ブルネイ	97	97	97	97	97	97	83	83
カザフスタン	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,628	1,628
マレーシア	567	567	567	567	567	567	401	401
メキシコ	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753	1,753
オマーン	801	801	801	801	801	801	841	841
ロシア	9,978	9,978	9,978	9,978	9,978	9,978	9,949	9,949
スーダン	72	72	72	72	72	72	64	64
南スーダン	124	124	124	124	124	124	124	124
<b>非 OPEC 10 小計</b>	<b>15,822</b>	<b>15,822</b>	<b>15,822</b>	<b>15,822</b>	<b>15,822</b>	<b>15,822</b>	<b>15,590</b>	<b>15,590</b>
<b>OPEC+(プラス)合計</b>	<b>39,199</b>	<b>40,199</b>	<b>40,199</b>	<b>40,199</b>	<b>40,199</b>	<b>40,199</b>	<b>40,584</b>	<b>40,584</b>

## OPEC+閣僚会合の動き

2022年10月5日 OPEC+閣僚会合：200万B/D協調減産（サウジ、ロシア▲526他）

2023年2月10日 ロシア自主減産（▲500）

2023年4月2日 OPEC6カ国、非OPEC2か国自主減産発表（サウジ▲500他）

2023年6月4日 OPEC+閣僚会合 2024年1-12月全20カ国見直し & サウジ7月自主減産（▲1,000）

2023年6月13日 ロシアの2024年目標生産量を9,828→9,949千B/Dに修正